

# くすりばこ



薬剤部 主任  
弓削 理恵子

◆外来がん治療認定薬剤師

## 115.がん薬物療法をされている患者さんと 薬剤師とのかかわり

現在、日本人の2人に1人が生涯で「がん」になると言われています。

がん薬物療法はめざましい進歩を遂げ、抗がん剤の種類も増え、治療方法も多岐にわたってきています。当院では治療をされている間、入院では病棟薬剤師、外来では薬剤師外来の薬剤師が患者さんと関わっています。

入院では各病棟に薬剤師が配置されており、持参されたお薬のチェックや新たに処方された飲み薬や注射の説明を行い患者さんと関わっています。入院中にがん薬物療法が新たに始まる場合は、病棟薬剤師がベッドサイドへ行き薬の説明や副作用のチェックをしたりしています。

入院でもがん薬物療法を行います。現在は外来通院で治療をすることが多くなってきています。当院でも毎日多くの患者さんが外来化学療法室を訪れ、治療をされています。

外来ではお薬は院外処方せんを調剤薬局へ持って行くため、調剤薬局の薬剤師から説明を受けたり相談されることが多いと思います。当院では外来のがん薬物療法をされている患者さんへ、調剤薬局の薬剤師と協力しながら薬剤師外来で薬の説明や相談を行っています。また入院から外来治療へ移行される場合や外来で治療されていた患者さんが入院される場合は、病棟薬剤師と薬剤師外来で情報共有した上で患者さんと関わっています。



### 外来通院で行われる、がん薬物療法の流れ

①受付

②採血・採尿・画像検査等

③患者支援センターで診察前の薬剤師や看護師による面談

(体重、血圧の測定、他院で処方されている薬の確認、服薬状況の確認、副作用状況や体調の確認など)

④医師の診察

⑤外来化学療法室にて抗がん剤を投与

(内服のみの場合は院外処方せんを調剤薬局へ)

流れに沿って薬剤師の役割をご説明します。

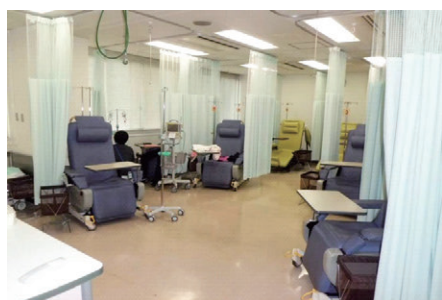
③の薬剤師外来で治療日誌の記載内容などに沿って副作用状況を伺い副作用に対する薬の処方があれば、効果の確認・評価をします。また新たに処方を提案することもあります。内服の抗がん剤があれば、服薬状況を確認します。また面談時にある一定以上の体重の増減が見つかったら処方された抗がん剤の量が適正か確認し、変更が必要であれば医師へ問い合わせをします。抗がん剤の投与量は一般的に体重や、身長や体重から体の面積を計算した体表面積から算出されることが多いからです。これらの確認事項は、医師・看護師など多職種で情報共有をするため、電子カルテに記載します。

薬剤師外来は患者支援センター内で行っています



④の診察でがん薬物療法が可能と判断された場合に、点滴の場合は⑤外来化学療法室で点滴を行います。点滴中に薬剤師が伺い、診察前面談で提案したお薬の処方や治療内容の変更があれば確認・説明をします。また点滴内容を記載したお薬手帳シールを渡したり、調剤薬局の薬剤師と連携してお薬の説明、相談をするために点滴の内容や副作用の状況を記載した化学療法情報提供書を渡しています。

外来化学療法室



点滴内容のお薬手帳シール



調剤薬局への化学療法情報提供書

外来では医師の診察前に薬剤師が患者さんと関わり、必要事項を確認することにより医師の診察が円滑に進むように努めています、また、患者さんが安心して医師の診察を受け・安全な治療を受けていただくことを目指しています。

また抗がん剤治療に薬剤師がいつも関わっていることと、薬剤師だけではなく医師、看護師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種が専門性を活かして連携していくことにより、安全に薬を患者さんに提供できると考えています。

がん薬物療法に関して不安なことや疑問に感じる場合がございますら、入院中は病棟薬剤師、外来では患者支援センターまたは外来化学療法室で薬剤師にいつでも質問してください。